令和7年度　　中央小学校評価書

3・・・あてはまる　2・・・だいたいあてはまる　1・・・あまりあてはまらない　0・・・あてはまらない

学校教育目標	本校の教育の基盤	大津市の6つのキーワード	中項目	小項目		自己評価 小項目評定	自己評価 中項目評定	自己評価 現況	委員評価	委員評価 ご意見
「豊かな心で　考えて　やりぬく子の育成」	**笑顔あふれる学校！中央小** 「豊かな心で　考えてやりぬく子」 ○中央小3つの約束 しっかり「あいさつ」 しっかり「そうじ」 しっかり「聴く」 **役に立つ喜びを知る子** ○基礎・基本の習得 ○個に応じた指導・協同的な学びの推進 ○自他の生命・人権の尊重 ○公共心・公徳心・道徳教育の推進 ○学校と家庭を結んだ自ら学ぶ習慣の形成 ○体験活動の充実<感性を磨く・仲間をつくる> ○安全・安心できる学校づくり ○危機予防・回避能力を高める安全教育の推進 ○魅力ある授業・体力づくりの推進 ○健康な心身を育む食育の推進	1．学ぶ力の向上（主体的、対話的で深い学び） 2．道徳教育の充実 3．体力づくり 4．指導改善（組織的・計画的） 5．育ちと学びを支える連携 ①家庭・地域との連携 ②保幼小中の連携 6．組織的体制の充実 ①生徒指導体制の充実 ②特別支援教育の充実	学び合い（主体的、対話的で深い学び）	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践に努めているか	学年・学級経営	2.6	2.5	・一人一授業公開の取り組みにより、いろいろな学年の授業を見に行くことができている。定期的に校内での授業研究会が開催されており、教職員が一体となって授業改善に取り組むことができた。 ・学校で学ぶ意味を児童が感じることができるように、児童が自分の考えを持ち、伝えることができる授業づくりを意識することができた。 ・「主体的に活動する子ども」を目指して、学級活動を窓口にしてすべての教科で取り組んでおり、少しずつではあるが、子どもが自分の思いや考えをもつことができている。	2.9	・児童アンケート結果、保護者アンケート結果ともに児童が登校を喜んでいる様子が伺え、学級・学年集団づくりが良好であることがわかる。 ・児童アンケートでは、「しっかりと話を聞いている」「授業では楽しく活動できている」という項目が伸びており、保護者アンケートでも「自分から進んで学習している」という項目が伸びているなど成果が表れている。 ・子どもたちが自分の考えを言葉で表現する機会が増え、学習への主体的な参加を工夫され、実践されていることは意義のあることだと思う。授業研究等で学びの質のさらなる向上を期待している。 ・参観を拝見すると、児童が積極的に挙手し、意見を述べ、周囲の児童と共有している事が感じられる。自分と異なる意見を尊重することを自然と身に付けていると思う ・生徒が主体的な学びの場を引き出すことは重要であると思う。今後も継続的に取り組みを進めていた
				協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めているか（ICTの活用を含む）	授業の工夫改善校内研究	2.4				
				学び合いを追究する授業研究や研修会に取り組んでいるか	協同的な学びの形成	2.5				
			道徳教育の充実	生命を尊重する心や人権の尊重などの道徳的実践力を育てる活動の実施に努めているか	道徳の指導	2.4	2.1	・学校生活と道徳の授業における学習内容との関連性を意識して授業を行うことができた。道徳の授業を中心にすえながら、日常生活に般化し、児童が命の尊さやいじめ防止について意識できるよう努めた。 ・12月の人権週間では、全校で人権作品の作成に取り組むとともに、1月には道徳の授業公開を行い、保護者に参観してもらうことができた。 ・道徳指導計画（別業）を見直しや掲示用挿絵の保存などを学校として取り組み、学校行事や各教科との関連を整理することができた。	2.4	・道徳は指導案の作成が難しい教科だと思うが、「学校生活との関連付け」など日常生活の中から児童に意識を持たせる等、創意工夫が見られる。 ・学習参観の機会に道徳の時間をあてることで家庭の理解にも役立っている。 ・日常の学校生活と結びついた道徳授業が実践され、温かい人間関係づくりにつながっているように感じる。保護者参観等で実社会・家庭教育と結びついた道徳教育の実践が大切だと思う。 ・「いじめ防止」の標語を見かける事も多く、持ち帰るプリントなどからも人権について積極的に取り組んでおられると思う。 ・自殺の低年齢化やSNSなどの潜在的ないじめ事案がなくならない中で、命の大切さや他人の心を傷つける行動をしないことを意識づける道徳教育を小さい時からお願いしたい。 ・アンケートで15が減っているのが気になる。
				道徳の授業研究や資料の開発・整備・交流が図れているか		2.1				
				道徳の授業に関わる内容や人権教育についての学習を参観してもらったり、通信等で保護者に伝えたりしているか。		1.9				
			心身とも健やかな身体つくり	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めているか	体育学習保健指導食育	2.3	2.3	・日頃より休み時間に外で遊ぶ児童も多く、体育の授業にも遊びを取り入れ、工夫した体力作りを行っている。 ・給食時の放送等、食育に関わる情報の発信を子どもたちが担い、努めている。 ・体力向上を目指し、体育の授業が楽しくなるように日々教材研究に努めている。委員会を中心に、全校児童が外に出て体を動かすイベントを学期に1回は取り組むことができた。また、スポーツランキング参加への積極的な呼びかけにより、子どもたちの体を動かす機会が増えた。	2.8	・休み時間に学校に訪問すると、児童が校庭を走り回っている姿を目にすることが多く、進んで体を動かしている様子が見て取れる。 ・児童アンケート、保護者アンケートの結果が大変高い。 休み時間の運動や体育授業の充実により、体力向上の意識が高まっているように感じる。体力差を配慮され、無理なく参加できる教育環境が整っているように思う。 ・給食の様子（メニュー・食べ残し・食育）の情報が欲しいところである。 ・休み時間も外で球技や鬼ごっこなど、体を使う遊びをしている様子がわかる。体育などで完全に優劣を競うのではなく、まず楽しく体を動かす意識づけができていると感じている。 ・自分で工夫した遊びやスポーツを取り入れた遊びが少ない気がする。現在、多くのゲームや競技スポーツが当たり前の社会において、遊びの楽しさや学年を越えて交流の場が必要と思う。
				食育・保健指導を含め、体力作りを推進する活動実践に努めているか		2.2				
				体を動かす気持ちよさを体感させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成に努めているか		2.3				
			指導改善（組織的・計画的）	学力の向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善に努めているか	指導改善	2.5	2.0	・OJTの一人一授業などで小集団での授業研究や初任者研修（公開授業/学期）および授業研究会、若手育成訪問などを行っており、指導方法の工夫・改善に努めた。 ・常に教師間で連携し、授業内容の共有を行っている。今後もOJT公開授業を通して、自身の授業を磨き、他の教師から学ぶことができるうえにしたいと考えている。 ・働き方改革については、退勤時間を意識しながら効率的に業務を進められるようになってきた。しかしながら、会議等の時間が長引くこともあり、働き方改革をさらに進めるために、全職員が個々の働き方について意識していくことが必要であると考える。	2.6	・夜遅くまで職員室に明かりがついていることがあり、働き方改革との関係で少し心配です。 ・校内研修が計画的に実施され、先生方の指導力向上に寄与され、授業改善に生かす姿勢が見られる。子どもの学力差、学習のペースの多様化への対応や先生方の業務負担の軽減と働きやすい環境づくりも課題になると思う。 ・多代故に地域を歩けていないのではと心配である。 ・様々な生徒がいる中、全員に一定の学力を身に付けられるようにすることは難しいと思うが、参観で様子を見る限りは生徒たちが内容を理解できるよう授業を工夫されていると思う。働き方については、先生方が平日遅くまで残っておられる姿も目にする。先生方の心身に負担がかかっていないか気がかりである。 ・実践を通して、目的を持って計画的に継続的に行うことは若手教師の教育には重要であると考える。
				教職員の指導力育成に立った組織的な学校組織の運営・改善が行えているか	重点部会	2.1				
				働き方改革の取組と教育活動の質の改善が図れているか	働き方改革	1.4				
			家庭・地域との連携	保護者の子育てに対する積極的な支援を行っているか	保護者支援	1.9	2.1	・保護者には、個別懇談会だけでなく、必要に応じて日々の様子を話すことで、保護者の悩みを理解したり共有したりすることができた。 ・学校のホームページが日々更新されており、学校での子どもたちの様子が保護者や地域の方に伝わっていると感じる。 ・夢プロの大津祭りウォークラリーでは、子どもの思いをもとに、地域の方々の協力のもと子どもたちが曳山を周り、地域の伝統である大津祭りの良さに改めて気づき、地域の方々と交流することができた。 ・地域行事への児童・教職員の参加や作品展示など、地域との連携を深めることを大事にしてきた。 ・今年度は、警察と協力して不審者避難訓練を実施できたことで、より現実的で充実した訓練ができた。警察官を招いて不審者侵入を想定した職員研修も実施し、全職員の日頃の防犯への意識を高めることができた。	2.7	・夢プロの取り組みで大津祭りを取り上げたことはとても良かった。 ・特に宿泊行事の時など、ホームページの更新が多いことで子どもたちの様子がよく分かる。 ・「長寿のつどい」への児童の参加は、引率などご苦労いただいていると思うが、とても有り難い。 ・保護者アンケートでも家庭や地域との関係に関する項目は評価が高い。 ・学校だより等を活用した情報発信が丁寧で、保護者の安心につながっているように思う。地域関係機関との協力連携も円滑に実践されていると思う。 ・地域との連携がとても強く、地域の方々も小学校を大切に思ってくださっている気持ちに応えられるよう、情報の共有化がされていると思う。学校のHPにも日頃の様子が掲載されており、これから入学される方にも雰囲気がよく伝わっていると思う。 ・大津祭を通して地域との交流ができ、先人達が守り伝えた伝統、文化の良さに気づき、次代を担う子ども達が継承する大切さを少しでも心に持っていただいたら、夢づくりプロジェクトとしての成果であると思う。 ・保健だよりはもっぴい等で家庭に対して対応しているのでは、保護者支援の評定が低すぎる
				学校での子どもたちの様子が、保護者や地域の方に伝わるように、通信やホームページの充実、個別の連絡等に努めているか。	保護者・地域連携	2.1				
				防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくりに努めている。	地域連携	2.2				
			保幼小中の連携	子どもの校種間交流や教員の出前授業を行っているか	保幼・小・中連携事業体験活動	2.2	2.0	・大津幼稚園の作品展覧会へ行かせていただいたり、ひまわり学級でのお店屋さんに大津幼稚園の先生方に来ていただいたりなど、園や学校での様子を共有し、交流することができた。 ・小学校で行う避難訓練を大津幼稚園と合同訓練として実施した。 ・校内研究授業や授業研究会にも幼稚園教員が積極的に参加するなど、校種間交流に努めることができた。 ・今年度、「架け橋プログラム」を作成しており、幼小で「目指す姿」や「大事にすること」を共通理解できた。お互いの様子について知る機会が多く、日々の子どもへのかかわりに生かすことができた。	2.8	・幼稚園と隣接している地の利を最大限に生かしている。 ・幼稚園との交流活動や情報共有が進み、学習や生活の円滑な接続に貢献尽力されている。 中学校とのカリキュラム接続も意識され、段々的な学びの精築を期待している。 ・55交流など、これから入学される幼稚園の児童と交流があったと聞いている。継続的に活動する事で、来年以降にも生かせると思う。 ・大津幼稚園では就学前教育の充実にいただいているが、園児数の減少が続いている状況において、今後も連携をとって小学校にスムーズに行けるよう交流を深めていただきたい。
				校種間の合同研修会等に参加しているか		2.1				
				校種間の授業公開、カリキュラム研究に努めているか		1.7				
			生徒指導体制の充実	問題行動の早期発見、日常的な予防指導に努めているか	生徒指導教育相談いじめ対策対応	2.7	2.6	・あいうえおアンケートから児童の困りごとを早期に発見し、問題行動を未然に解決できている。打ち合わせで、毎週のように各学年の気になる児童や行動を全教師が共有できている。 ・定期的な児童へのアンケートを紙ベースでも、タブレットでも行っており、担任による児童への教育相談を確実に行うことが問題行動の早期発見に繋がっていると感じている。 ・毎週の打ち合わせでの各学年の報告により、全校の様々な児童の困りを知ることができ、教職員全員で中央小学校の児童を見守る体制がとれている。 ・生徒指導と教育相談担当がしっかりと情報共有し、いじめや問題行動への組織的な対応に努めた。また、学校内だけで抱えることなく、関係機関とも連携すること	2.8	・児童アンケートで「友達にやさしくしている」「いじめはいけないこと、命は大切なものと思っている」がとても高く、生徒指導体制としても充実していると感じる。 ・一方で、「困っているときは、誰かに相談できる」の肯定的評価が若干下がっていることが気になる。 ・児童理解を深める合議体が機能し、早期対応が図られている。校内での情報共有が丁寧に行われ、担任の先生だけに任せない支援体制が整っているように思う。いじめ防止等子どもの小さな変化を見逃さない観察と声かけが日常的に行われ、安心して過ごせる学校づくりに尽力されていると思う。 ・定期的に児童へのアンケートを実施されている事は、問題の早期発見につながると思う。あいさつを大切にされている事もあり、積極的に保護者にあいさつする児童もおり、健全な育成の基本となっていると感じる。 ・学年にかかわらず、情報共有は必要である。早期発見、早期対応を心がけていただき、的確な判断を
				生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進をしているか		2.7				
				家庭・地域・関係機関との連携による指導ができている。		2.3				
			特別支援教育の充実	個別指導計画の作成と活用を進めているか	特別支援教育	2.6	2.5	・校内特別支援委員会を設置し、学校内の特別な支援を必要とする児童を把握して巡回相談を計画的に行うように努めたり、個別の指導計画を確実に作り、活用できるようにしている。 ・個別の指導計画についてコーディネーターも一緒に作成するなど、経験が浅い教師も作成できるようにサポートしている。通級指導の教師が全校の気になる児童を把握して、サポートしている。 ・担任が児童の課題を見つけ、個別の指導計画の必要性を保護者と共有できている。多職種巡回相談など、関係機関と連携した支援を行うことができた。	2.8	・最近の傾向として、「個別の指導計画」が必用な児童が増加傾向にあると思うが、しっかり対応できていると思う。 ・個別支援計画が適切に運用され、担任の先生、支援の先生との連携が良好だと思う。合理的配慮が丁寧に行われ、学習や生活面での支援が行き届いているように思う。 ・運営協議会の際、授業でも児童ごとに必用な対応を取られていると感じた。 ・最近、特別支援を受ける児童が多くなり、多種多様化して来ている。一人一人に応じたサポートが大切であり、保護者との連携でその児童の特性に合った指導をお願いしたい。
				組織的・計画的な特別支援教育体制を確立しているか		2.3				
				関係機関と連携した相談体制の充実が図れているか		2.5				
		児童の学校満足度				2.5		学校アンケートで、86%の児童が「学校が楽しい」と回答。		